

御社のSDGsを会計的視点で教えてください

クオンツ

Part3:サステナブルな事業展開と攻めの研究開発で輝く技術競争力 メタウォーター(9551)

2020年12月24日

SBI証券 金融調査部

チーフクオンツアナリスト

波多野 紅美

シニアアナリスト

和泉 美治

米国サステナビリティ会計基準審議会 (Sustainability Accounting Standards Board: SASB) が策定するサステナビリティ会計基準では、製品生産やサービス提供から生じる環境や社会において財務的に影響を与える非財務情報を「マテリアリティ」として定義し、業種毎に報告基準を定めている。この枠組みは、事業会社における非財務情報の報告を促進する事のみならず、投資家との対話に活用されることが期待されている。

本レポートでは、SDGs や SASB が定義するマテリアリティに着目し、サステナブル業種「産業用機器」に属するメタウォーター (9551) を対象に非財務活動や企業のSDGsを会計的視点から定量分析を行う。

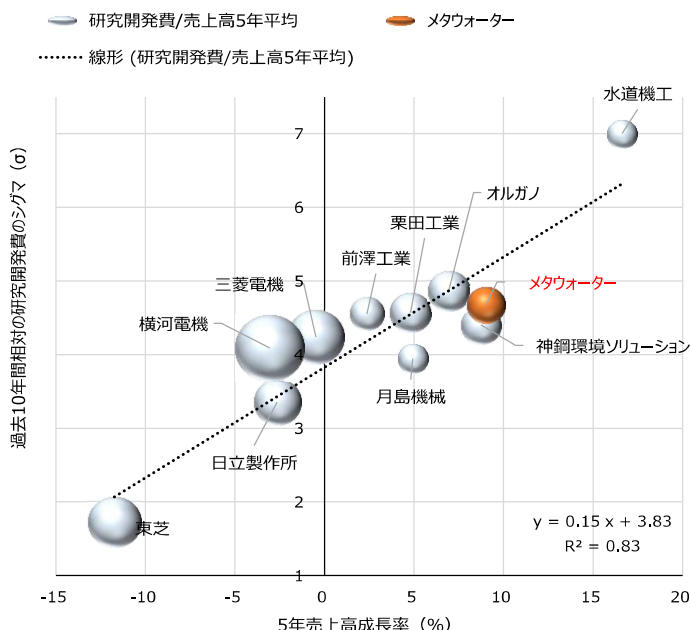
攻めの研究開発と高い技術競争力

生産性向上や技術革新に取り組む同社では、同業他社比較の中で研究開発に対し積極的である。過去10年間の研究開発費の標準偏差は+4.67σ、5年売上高成長率は9.02% (下左図) と、『成長率が高く研究開発に積極的』な企業として注目できる売上高研究開発費比率や『研究開発の投資効率』として捉えられる研究開発費に対する技術競争力の比率も高く、特許における技術競争力や注目度が高まっている。

SDGs6 目標:きれいな水を:技術や創造力で社会的利益と長期的な繁栄を目指す

災害対応に同社の技術を生かしたいという発想から、セラミック膜を含めた浄水装置をコンテナにパッケージしトラックに搭載させた Container Package Ceramic Mobile (以下 CPCM)を開発し『移動式の浄水場』を作った。年々増加傾向にある集中豪雨の発生頻度と災害件数を背景 (右下図) に、災害時での移動式の浄水場のニーズは高いと考えられる。緊急時には、1日約150~600トンの水量、500人から2000人の飲料や生活用水の供給が可能になる。また、CPCMの耐久年数は20年以上もあり、インフラ開発がすすまない途上国でも中古で安価に提供することができ、循環型モデルとしても有効だ。

売上高成長率、研究開発費、研究開発費/売上高の関係



全国(アメダス)の1時間降水量50mm以上の集中豪雨の年間発生回数

